きらり人

生き生き人生　わくわく私

楽しみながら
絵本の世界を語りたい

読み語り隊（双海）

▲不思議なこびとたちが次々登場するユニークな絵本『こびとづかん』（なばた としたか作）を読み語り中。

「今日はどんな本？」「早く読んで！」教室に子どもたちの元気な声が響く中、絵本を読み始めるのは「読み語り隊」の皆さんです。ただ聞かせるのではなく、絵本を通じて子どもたちに語りかけたいという思いがこの名前に込められています。

読み語り隊の始まりは、平成14年4月。子どもたちに本を読んで欲しいという由並小学校の呼びかけに応えたのが、代表の織田恵美子さんでした。1人で始めた活動に、興味を持つ仲間が加わり、現在メンバーは11人。双海地区の3つの小学校に週1回、絵本を携え訪れています。朝8時からの15分間は、子どもたちと一緒に絵本の世界を楽しめるすてきな時間です。ゆっくりと語られるお話のおもしろさに、いつの間にか子どもたちも夢中で聞き入っています。**「私たちの活動は、あくまでボランティア。だから自由な雰囲気で楽しく聞いて欲しいですね。」**

読み語りで大切なのは、本選びと読み手。子どもたちが本に興味を持つきっかけになればと季節の風物や出来事、時には学校行事に合わせて本を選びます。修学旅行で広島へ行く前には、原爆を題材にした『ひろしまのピカ』を読んだそうです。また、絵本の言葉が子どもたちの心に響くようにと、県立図書館などで行われる学習会へ参加し、声の出し方や間の取り方など読み方の技術も学んでいます。**「同じ本でも、読み手によって印象が違う。そのおもしろさも伝わればいいですね。」**

読み語りには、映像と違い、絵と言葉から聞き手がそれぞれに本の世界を想像できる良さもあります。例えば、命の大切さのように直接伝えるのは難しいことでも、絵本を通してなら、子どもたちの心に自然に届くそうです。こうした活動を続けるうちに、**「本なんか嫌いと言っていた子が、『この間読んでくれた本がないんだけど』と自分から本を借りようとしたり、『この本読んで』とリクエストしてくれたり。」**と、うれしい変化もありました。

絵本の世界は奥が深く、大人も一緒に楽しめる、とメンバーは口をそろえます。**「親がまず読んで、『この本おもしろかったよ、一緒に読もうか。』と子どもを誘って共有する時間を持てたらいいですよね。そして、子どもたちが本に興味を持った時、すぐに読める環境を作ってあげることも、大人の役目だと思うんです。」**

今、読み語りに触れて育った子どもたちが、お父さん、お母さんになった時、今度は、自分の子どもに絵本を読んであげて欲しい。そうして、読み語りの輪が広がれば…と、これからも活動を続けます。